

学校での授業改善、子どもたちの学習習慣等の確立を図り、学力向上につなげましょう！

全国学力・学習状況調査は、教科に関する調査と児童生徒に対する質問紙調査等を総合的に活用することで、授業改善や子どもたちの学習状況の改善に役立てることを目的として実施されています。

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえ、課題がみられた学習内容の系統性を全教職員で意識し、各学年における授業改善や個に応じたきめ細かな指導につなげるとともに、子どもたちの学習習慣等の確立を図っていきましょう。

教科に関する調査について

<各教科の平均正答率>

	国語	算数・数学	英語 「聞くこと」「読むこと」「書くこと」
小学校	66.9 (-0.3)	61.8 (-0.7)	—
中学校	68.7 (-1.1)	51.3 (+0.3)	45.0 (-0.6)

※ () の数値は、全国平均との差を示します。

調査問題は、学習指導要領の理念、目標・内容等に基づくものであり、小学校第5学年、中学校第2学年までに十分に身につけ、活用できるようにしておくべきと考えられるものが出題されています。

各学校において

「できなかったところ」を「できる」ようにするために

調査結果をもとに、児童生徒一人ひとりの学習内容の定着状況を把握し、次のステップを進めましょう。

ステップ1

調査結果から、「できているところ」「できなかったところ」を把握・分析し、何年生のどの内容でつまづいているのかを学校全体で共有しましょう。

ステップ2

明らかになった児童生徒の課題を克服するために、組織的・計画的に取り組みましょう。

- ・課題を克服するための各学年における授業改善
- ・課題に対応した問題やワークシートを補充学習、家庭学習等に活用
*課題に対応した問題やワークシートは、みえの学力向上県民運動HP「先生のページ」に掲載しています。また、児童生徒の端末でもC B Tシステムの「ワークシート」に提供しています。
- ・個に応じたきめ細かな指導

ステップ3

取組により、児童生徒がどれだけ「できる」ようになったか、学習内容の定着状況を確認し、引き続き、授業改善や個に応じたきめ細かな指導につなげましょう。

次のページからは、各教科の課題があった問題について、授業改善のポイントを掲載しているよ。
普段の授業で意識して取り組んでみよう！



三重県教育委員会
マスコットキャラクター
「みえびい」

小学校 国語

図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが求められています。

正答率 26.0%(全国差-0.7)

小学校国語 1 二

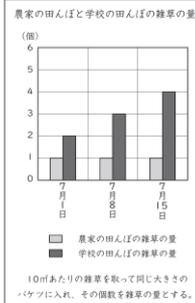
【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、アいがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイくらべてみました。ウきかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



このようなことに取り組み、9月の下旬にお米をしゅうかくすることができました。

- (条件)
- 学校の米作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と「カード④」のそれぞれから分かることを書くこと。
 - 問題点の解決方法については「カード⑤」をもとにして書くこと。
 - 六十字以上、百字以内にとめて書くこと。

二 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の問題点とその解決方法について書くようにしています。あなたが川村さんなら、アに学校の米作りの問題点とその解決方法について書いて書こうとしています。あなたが川村さんなら、イに入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【カード①】

6月24日
・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
・このまま雑草が増えたら米のしゅうかくにえいきょうするのではないかと心配だ。

【カード②】

6月30日
・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
・調査きかん 7月1日～15日

【カード③】

7月19日
・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
・雑草の量と米のしゅうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

【カード④】

7月20日
[農家の石山さんのお話]
・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日
[学校でできる解決方法]
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

1

川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書こうとしています。次は、「川村さんの考え」と川村さんが選んだ「カード①」から「カード⑤」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【川村さんの考え】

雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて、問題点とその解決方法を書こう。



川村さん

◆指導のポイント

図表やグラフが掲載されている教材文を扱う学習において、図表やグラフを用いた筆者の目的やその効果を捉えながら、自分の表現に生かすことができるよう指導することが大切です。

指導に当たっては、実際に報告したり説明したりする文章を書く学習において、より分かりやすくするために、どのような図表やグラフを用いるのがよいかなど、児童が考える場面を設定することが考えられます。また、児童の学習の状況に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することも効果的です。複数の文章を比べることで、図表やグラフなどを用いると、自分にとって考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものになることを児童が実感できる場面を設定することも考えられます。

ただし、国語科の学習であることに鑑み、図表やグラフの読み取りが学習の中心となったり、図表やグラフを自分で作成する活動に過度に偏ったりしないよう留意する必要があります。



小学校算数

図形を構成する要素などに着目し、基本的な図形の面積の求め方から面積の大小を判断して、その判断の理由を表現することが求められています。

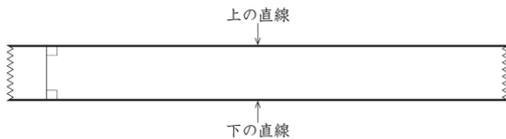
正答率

15.5%(全国差-5.3)

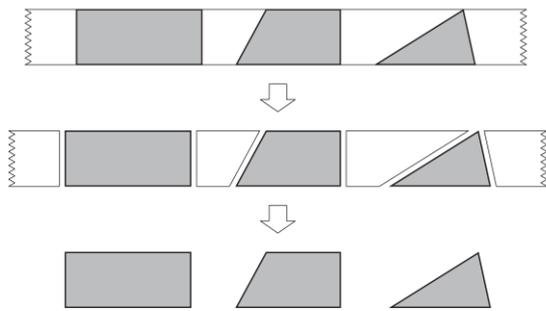
小学校算数 2 (4)

2

えいたさんたちは、テープを持っています。テープの上の直線と下の直線は平行で、テープのはばはどれも等しくなっています。

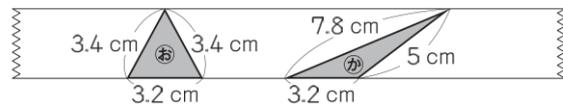


えいたさんたちは、下のようにテープを直線で切って、いろいろな図形をつくりました。



切り方によって、いろいろな図形ができますね。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくりました。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

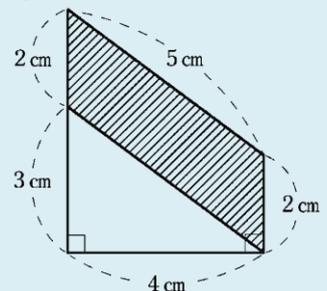
- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

◆指導のポイント

いつでも同じ要素などに着目し、面積を求めることができるかどうかを確かめることによって、公式として導いていくようにすることが大切です。

また、求積のためにどの部分の長さを測る必要があるかを考えることで、公式の理解を深め、活用できるようにすることも大切です。例えば、右のような、多くの辺の長さが示されている場面において、平行四辺形の面積を求めようとするとき、必要な情報を自ら選び出し面積を求めるなどが考えられます。

さらに、底辺と高さの具体的な長さが分からない場合でも、底辺と高さがそれぞれ等しければ、それらの三角形の面積は等しくなるということを、三角形の面積の公式から判断できるようにすることも大切です。



(出典) 令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書 【小学校】 算数
(国立教育政策研究所 HP)

https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukou/report/primary_math.htm

報告書には、「授業アイデア例」も掲載されています。



文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることが求められています。

正答率

49.9%(全国差-0.1)

中学校国語 4三

4

石井さんは、国語の時間に、「竹取物語」を読みました。そのあと、学校図書館で、現代語で書かれた「竹取物語」を見付け、読み比べてみました。次は、「授業で読んだ「竹取物語」の一部」の〈原文〉とその〈現代語訳〉、「学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

〔授業で読んだ「竹取物語」の一部〕

〈原文〉

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの造となむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとつくしうてあり。

〈現代語訳〉

今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。名前を、さぬきのみやつこといつた。その竹の中に、根もとの光る竹が一本あった。不思議に思つて、近寄つて見ると、筒の中が光っている。それを見ると、三寸ほどの人が、とてもかわいらしい様子で座っている。

〔学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部〕

むかし、竹取りじいさんと呼ばれる人がいた。名はミヤツコ。時には、讃岐の造麻呂と、もつともらしく名乗つたりする。野や山に出かけて、竹を取つて、さまざまな品を作る。

笠、竿、矢、籠、筆、箱、筒、箸。

筒は料理用。そのほか、すだれ、ふるい、かんざし、どれも竹カンムリの字だ。自分でも作り、職人たちに売ることもある。竹については、くわしいのだ。ある日、竹の林のなかで、一本の光るのをみつけた。ふしぎなことだと、そばへ寄つてよく見ると、竹の筒のなかに明るいものがあるらしい。

その部分を、ていねいに割つてみる。手なれた仕事だ。なかには、手のひらに乗るような小さな女の子が、すわっていた。まことに、かわいらしい。

〔星新一「竹取物語」による〕

三 「学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部」は、古典の作品である「竹取物語」に、作家の星新一が工夫を加えて現代語で書いたものです。どこがどのように工夫されていると考えられますか。「授業で読んだ「竹取物語」の一部」や「学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部」の表現を取り上げて、あなたの考えを書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

◆指導のポイント

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるようにすることが大切です。指導に当たっては、同じテーマで書かれた複数の文章を比較しながら読み、それぞれの文章の構成や展開、表現の特徴を分析的に捉える場面を設定することが考えられます。それぞれの文章の工夫や効果について、根拠となる段落や部分を挙げて自分の考えを持つよう指導する必要があります。

古典の楽しみ方を見いだすことができるようにすることも大切です。指導に当たっては、生徒が楽しめるような現代語訳を取り上げ、文章の構成や展開、表現の効果などに着目して工夫されているところを考える学習活動などが考えられます。また、学校図書館などを利用し、教科書に掲載されている古典作品について多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料をまとめたりさせることも考えられます。

(出典) 令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書 【中学校】 国語
(国立教育政策研究所 HP)

https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/middle_lang.html

報告書には、「授業アイデア例」も掲載されています。



中学校 数学

関数を用いて事象を捉え考察する場面において必要となる、「事象の特徴を的確に捉えること」「反比例の意味を理解していること」が求められています。

正答率

43.1%(全国差+0.3)

中学校数学 4

4 y は x に反比例し、比例定数は3です。このとき、 x の値とそれに対応する y の値について、下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。ただし、 x の値が0の場合は考えないものとします。

ア x の値と y の値の和は一定で、比例定数3に等しい。

イ y の値から x の値をひいた差は一定で、比例定数3に等しい。

ウ x の値と y の値の積は一定で、比例定数3に等しい。

エ y の値を x の値でわった商は一定で、比例定数3に等しい。

◆指導のポイント

反比例の意味を理解できるようにするために、反比例の特徴を表や式などに関連付けて捉えることができるようにすることが大切です。指導に当たっては、反比例の特徴を調べるために、「 y は x に反比例し、比例定数は3である」から、式が $y = \frac{3}{x}$ となることを確認した上で、 x に幾つかの値を代入して y の値を求めたものを表にまとめ、対応する x の値と y の値の積が3となることから $xy=3$ という関係があることを確認することが考えられます。そして、「 x の値と y の値の積は一定で、比例定数に等しい」という反比例の特徴を表や式 $y = \frac{a}{x}$ 、比例定数 a などに関連付けて捉えるようにします。

伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表、式、グラフを用いて、二つの数量の変化や対応の特徴を考察し、どのような関数関係にあるかを判断できるように指導することが大切です。

(出典) 令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書 【中学校】 数学
(国立教育政策研究所 HP)

https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/middle_math.html

報告書には、「授業アイデア例」も掲載されています。



中学校 英語

社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことが求められています。

正答率

18.6%(全国差-0.9)

中学校英語 8 (2)

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

◆指導のポイント

読んだことを基に自分の考えとその理由を書くことができるようにすることが大切です。指導に当たっては、「教科書に取り上げられている話題に関する自分の意見や感想などを、スピーチの形式や、新聞やホームページなどへの投稿文の形式で書く」といった言語活動に取り組むことが考えられます。

言語活動を行うに当たっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動を行うことが大切です。また、書いた英文を推敲する際には、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて適切な内容になっているか、正確に書くことができているかを指導する必要があります。内容や表現を改善していく上で、書いた英文に対して教師がフィードバックを与えたり、他の生徒からコメントをもらったりすることも大切です。

(出典) 令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書 【中学校】 英語
(国立教育政策研究所 HP)

https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/middle_eng.html

報告書には、「授業アイデア例」も掲載されています。

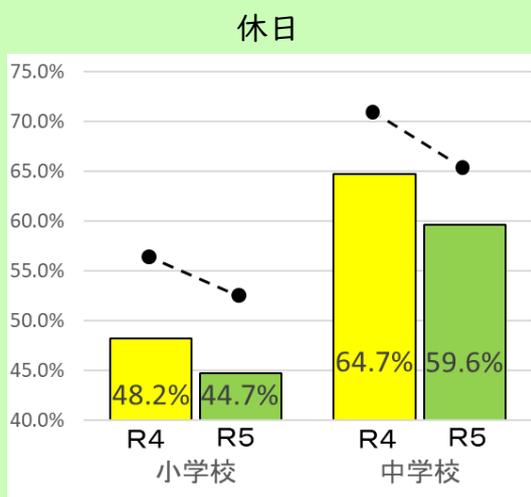
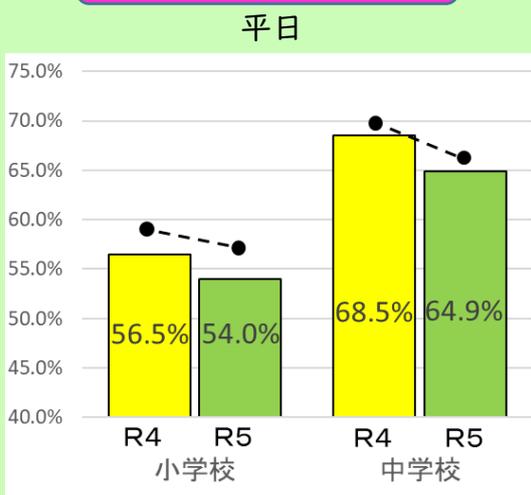


児童生徒質問紙調査について

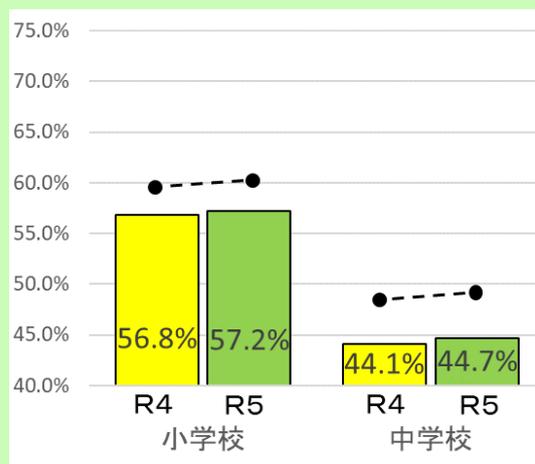
学習習慣・読書習慣に関する状況

平日・休日の学習時間（1時間以上）はともに減少傾向にあり、全国平均を下回る状況が続いています。また、読書時間（平日10分以上）は昨年度よりも増加したものの、依然として全国平均を下回っています。

学習時間（1時間以上）



授業時間以外の読書（平日10分以上）



※ - ● - は全国平均の推移を示します。

国による児童生徒質問紙と学力のクロス分析では、小中学校ともに、「休日に1日当たり勉強する時間が長い児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られる」と報告されています。小学校では平日も同様の傾向があると報告されています。

子どもが主体的、計画的に学習ができるよう、学校・家庭・地域が一体となって、学習習慣等の確立に向けて取り組む必要があります。



〈参考〉

令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料(国立教育政策研究所 HP)
<https://www.nier.go.jp/23chousakekka/houkoku/>



令和5年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について(国立教育政策研究所 HP)
https://www.nier.go.jp/23chousa/23c_housa.htm



〈編集・発行〉 令和5年10月発行
 三重県教育委員会事務局
 学力向上推進プロジェクトチーム
 TEL:059-224-2931
 FAX:059-224-3023
 E-mail:gakupro@pref.mie.lg.jp